

お客様各位

2023年1月26日

日本農薬株式会社

農薬登録のご連絡の件

首記の件、下記について登録されましたのでご連絡致します。

記

新規登録 2023年1月25日付（5件）
 (1) ブイゲットパラタスL粒剤
 (2) カラット1キロ粒剤
 (3) カラットフロアブル
 (4) カラットジャンボ
 (5) カラット400FG

適用拡大 2023年1月25日付（4件）
 (1) アクセルフロアブル
 (2) メジャーフロアブル
 (3) フェニックスフロアブル
 (4) パレード15フロアブル

新規登録 2023年1月25日付 (5件)

(1) ブイゲットパラタスL粒剤

登録第 24715 号

有効成分 :スピネトラム 0.75 %
 トリフルメゾピリム 0.75 %
 チアジニル 6.0 %
 毒性:毒物劇物に該当せず
 危険物区分:-

○適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	トリフルメゾピリムを含む農薬の総使用回数	チアジニルを含む農薬の総使用回数
稲(箱育苗)	いもち病 コブノメイガ ウンカ類	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50g	緑化期～移植当日	1回	本剤の 所定量を 育苗箱の 上から 均一に 散布する	3回以内 (移植時までの処理は 1回以内、本田での 散布は 2回以内)	1回	3回以内 (移植時までの処理は 1回以内、本田での 散布は 2回以内)
	イネミスゾウムシ幼虫 イネドクイムシ ツマグロヨコバイ		移植当日					
	いもち病 コブノメイガ ウンカ類 イネミスゾウムシ幼虫 イネドクイムシ ツマグロヨコバイ	高密度には種する場合は 1kg/10a (育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り50～100g)	移植当日					

○使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- 育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水して田植機で移植すること。
- 稲の葉が濡れている場合には、散布前に葉に付いている露を払い落としてから薬剤を散布すること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗又は苗の生育が不良な場合には、薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- 育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5ℓ)1箱当りに乾粒として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- 本田の整地が不均整な場合は、薬害を生じるおそれがあるので、代かきはていねいに行い、移植後に田面が露出しないよう注意すること。
- きく等の他作物に影響を及ぼす場合があるので、薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように散布すること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(2) カラット 1 キロ粒剤

登録第 24730 号

有効成分	:イマゾスルフロン	0.90 %
	テフリトリオン	2.0 %
	ピラクロニル	2.0 %

毒性:毒物劇物に該当せず

危険物区分:—

○適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水 稲	一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ヘラオモダカ、ミスガヤツリ ウリカワ、ヒルムシロ セリ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ アオミドリ・藻類に よる表層はく離	移植時	1kg/10a	1回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ ヒエ 2.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで			湛水散布 又は 無人航空機による散布
直播 水稲	一年生雑草 及び ホタルイ、ウリカワ ミスガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	稲 1 葉期～ ヒエ 2.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで			

イマゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数	テフリトリオンを含む 農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【カラット1キロ粒剤 つづき】

○使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失しないように使用すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に使用するように注意すること。ホタルイ、ウリカワは2葉期まで、ヘラオモダカは4葉期まで、ミスガヤツリは15cmまで、ヒルムシロは発生前まで、セリは再生期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前から発生始期が本剤の散布適期である。また、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く遅い発生のもので十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- (3) 散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態(3~5cm)で均一に散布すること。本剤散布後、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (4) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平作業及び植え付けはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (5) 軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田及び砂質土で漏水の大きな水田(減水深2 cm/日以上)では、薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (6) 直播水稻栽培では、稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (7) 著しい降雨が予想される場合には除草効果が低下するおそれがあるので散布を控えること。
- (8) 本剤を無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意すること。
 - ① 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - ② 専用の粒剤散布装置によって湛水散布すること。
 - ③ 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメトリック開度を調整すること。
 - ④ 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインパラの回転数を調整し、ほ場の端から5m離れた位置からほ場内に散布すること。
 - ⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
- (9) 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (10) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- (11) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (12) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (13) 空き袋等はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (14) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(3) カラットフロアブル

登録第 24731 号

有効成分	:イマゾスルフロン	1.7 %
	テフリトリオン	3.8 %
	ピラクロニル	3.8 %

毒性:毒物劇物に該当せず

危険物区分:ー

○適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水 稲	一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ オモダカ、クログワイ コウキヤガラ アオミドロ・藻類に よる表層はく離	移植時	500 mℓ/10a	1 回	田植同時散布機で施用
		移植直後～ ルビエ 2.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで			原液湛水散布、 水口施用 又は 無人航空機による滴下
直 播 水 稲	一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ ルビエ 2.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで			

イマゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数	テフリトリオンを含む 農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【カラットフロアブル つづき】

○使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 使用前に容器を軽く振ること。
- (3) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ルビエの2.5葉期までに時期を失しないように使用すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に使用するように注意すること。ホタルイは2葉期まで、ウリカワは3葉期まで、ミスガヤツリは15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガウは発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生始期までが本剤の散布適期である。また、オモダカ、クログワイ、コウキヤガウは発生期間が長く遅い発生のものまで十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- (4) 原液湛水散布に当たっては、水の出入りを止め湛水状態（水深3～5cm）で本剤が水田全面にいきわたるように散布すること。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (5) 水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、処理後田面水が通常の湛水状態に達したときに必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (6) 本剤を無人航空機で滴下する場合は次の注意を守ること。
 - ① 滴下は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - ② 滴下に当たっては散布装置のノズルを取り外すこと。
 - ③ 作業中、薬液が漏れないように機体の配管その他装置の十分な点検を行うこと。
 - ④ 隣接するほ場に水稻以外の作物が栽培されている場合は、無人航空機による本剤の滴下は行わないこと。
 - ⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
 - ⑥ 薬液滴下に使用した装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
 - ⑦ 本剤の滴下に使用した無人航空機の散布装置は、水稻以外の作物への薬液散布には使用しないこと。
- (7) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平作業及び植え付けはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (8) 軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田及び砂質土で漏水の大きな水田（減水深2 cm/日以上）では、薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (9) 直播水稻栽培では、稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (10) 除草効果が低下するおそれがあるので、著しい降雨が予想される場合には使用を控えること。
- (11) 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (12) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- (13) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (14) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (15) 空容器等はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (16) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(4) カラットジャンボ

登録第 24732 号

有効成分	:イマゾスルフロン	2.25 %
	テフルトリオン	5.0 %
	ピラクロニル	5.0 %

毒性:毒物劇物に該当せず

危険物区分:—

○適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ヘラオモダカ、ウリカワ ミスガヤツリ、ヒルムシロ セリ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ アオミドロ・藻類に よる表層はく離	移植直後～ ビエ 2.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	小包装(パック)10 個 (400g)/10a	1 回	水田に 小包装(パック) のまま 投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲 1 葉期～ ビエ 2.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで			

イマゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数	テフルトリオンを含む 農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

【カラットジャンボ つづき】

○使用上の注意事項

- (1) 必要量を購入し、できるだけ残すことなく使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように使用すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に使用するように注意すること。ホタルイ、ヘラオモダカは2葉期まで、ウリカワは3葉期まで、ミスガヤツリは15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。また、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く遅い発生のもので十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- (3) 散布に当たっては、水の出入りを止め5～6cmの湛水状態に保つこと。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (4) 本剤は小包装(パック)のまま、10アール当たり10個の割合で水田に投げ入れること。
- (5) パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破袋することがないようにすること。
- (6) 藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な薬害や効果不足を生じることがあるので使用をさけること。
- (7) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平作業及び植え付けはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (8) 軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田及び砂質土で漏水の大きな水田(減水深2 cm/日以上)では、薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (9) 直播水稲栽培では、稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (10) 除草効果が低下するおそれがあるので、著しい降雨が予想される場合には使用を控えること。
- (11) 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (12) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- (13) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (14) 空き袋等はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (15) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

(5) カラット 400FG

登録第 24733 号

有効成分	:イマゾスルフロン	2.25 %
	テフリトリオン	5.0 %
	ピラクロニル	5.0 %

毒性:毒物劇物に該当せず

危険物区分:—

○適用病害虫の範囲及び使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ヘラオモダカ、ウリカワ ミスガヤツリ、ヒルムシロ セリ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ アオミドロ・藻類に よる表層はく離	移植直後～ ルビエ 2.5 葉期 ただし、 移植後 30 日まで	400g/10a	1 回	湛水散布、 湛水周縁散布 又は 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草 及び マツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲 1 葉期～ ルビエ 2.5 葉期 ただし、 収穫 90 日前まで			

イマゾスルフロンを含む 農薬の総使用回数	テフリトリオンを含む 農薬の総使用回数	ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数
2 回以内	2 回以内	2 回以内

○使用上の注意事項

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使いきること。
- (2) 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ルビエの2.5葉期までに時期を失ないように使用すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果に差が出るので、必ず適期に使用するように注意すること。ホタルイ、ヘオモダカは2葉期まで、ウリカワは3葉期まで、ミスガヤツリは15cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生期まで、オモダカ、クログワイは発生前から発生始期まで、コウキヤガラは発生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。また、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く遅い発生のもので十分効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。
- (3) 散布に当たっては、水の出入りを止め5～6cmの湛水状態に保つこと。本剤散布後、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (4) 藻や浮き草が多発している水田では、拡散が不十分となり部分的な薬害や効果不足を生じることがあるので湛水周縁散布をさけ、水田全面に散布すること。
- (5) 浅植え、浮き苗が生じないように、代かき、均平作業及び植え付けはていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (6) 軟弱苗を移植した水田、極端な浅植えをした水田、極端な深水となった水田及び砂質土で漏水の大きな水田(減水深2 cm/日以上)では、薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (7) 直播水稻栽培では、稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (8) 除草効果が低下するおそれがあるので、著しい降雨が予想される場合には使用を控えること。
- (9) 本剤を無人航空機で散布する場合は、次の事項に注意すること。
 - ① 散布は使用機種の使用基準に従って実施すること。
 - ② 専用の粒剤散布装置によって湛水散布すること。
 - ③ 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のマトリグ開度を調整すること。
 - ④ 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離れた位置からほ場内に散布すること。
 - ⑤ 水源池、飲料用水等に本剤が飛散、流入しないよう十分注意すること。
- (10) 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (11) いぐさ栽培予定水田では使用しないこと。
- (12) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (13) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (14) 空き袋等はほ場などに放置せず、適切に処理すること。
- (15) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

適用拡大 2023年1月25日付 (4件)

(1) アクセルフロアブル

登録第 22461 号

- ①希釈倍数の変更:かんきつ(ゴマダラカミキリ)／1000～2000倍⇒1000～4000倍
- ②使用方法の追加:はくさい、レタス、非結球レタス、ねぎ／8倍(1.6ℓ/10a)、10倍(2ℓ/10a)、
無人航空機による散布
- ③希釈倍数の追加:キャベツ、ブロッコリー／10倍(2ℓ/10a)、無人航空機による散布
- ④適用病害虫名の変更:はくさい、だいこん／ダイコンサルハムシ⇒ダイコンハムシ、カブラハバチ⇒カブラハバチ類

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メタフルミゾンを含む農薬の総使用回数		
かんきつ	ゴマダラカミキリ	200 倍	5～200 ℓ/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	主幹から 株元に散布	3 回以内		
		1000～ 4000 倍	200～700 ℓ/10a			散布			
	アゲハ類 ヨモギエダシヤク クワミハムシ	1000～ 2000 倍							
キャベツ	コナガ、アオムシ ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨウムシ ウワバチ類	8 倍	1.6ℓ/10a	収穫前日 まで		3 回以内		無人航空機 による散布	3 回以内
	コナガ、アオムシ キスジノミハムシ ハイマダラノメイガ ハスモンヨトウ オオタバコガ ヨウムシ ウワバチ類	10 倍	2ℓ/10a						
		1000 倍	100～300 ℓ/10a					散布	
		1000～ 2000 倍							

【アクセルフロアブル つづき】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メフルミゾンを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	ヨウムシ	8 倍	1.6ℓ/10a	収穫前日 まで	2 回以内	無人航空機 による散布	2 回以内
	ハスモンヨトウ コナガ	10 倍	2ℓ/10a				
	コナガ	1000 倍	100～300 ℓ/10a			散布	
	ヨウムシ ハスモンヨトウ	1000～ 2000 倍					
はくさい	コナガ、アオムシ キスジノミハムシ ダイコンハムシ	8 倍	1.6ℓ/10a				
	ヨウムシ ハスモンヨトウ カブラハバチ類	10 倍	2ℓ/10a				
	コナガ、アオムシ ハイマダラノメイガ キスジノミハムシ ダイコンハムシ	1000 倍	100～300 ℓ/10a		3 回以内	散布	3 回以内
	ヨウムシ ハスモンヨトウ カブラハバチ類	1000～ 2000 倍					
レタス	ハスモンヨトウ オオタバコガ	8 倍	1.6ℓ/10a		無人航空機 による散布	3 回以内	散布
		10 倍	2ℓ/10a				
		1000～ 2000 倍	100～300 ℓ/10a				
非結球 レタス		オオタバコガ	8 倍	1.6ℓ/10a	無人航空機 による散布	2 回以内	散布
			10 倍	2ℓ/10a			
			1000～ 2000 倍	100～300 ℓ/10a			
ねぎ	シロイモジヨトウ	8 倍	1.6ℓ/10a	無人航空機 による散布	2 回以内	2 回以内	
		10 倍	2ℓ/10a				
だいこん	キスジノミハムシ ダイコンハムシ	1000 倍	100～300 ℓ/10a	収穫 7 日 前まで	散布		
	ハイマダラノメイガ ヨウムシ カブラハバチ類	1000～ 2000 倍					

* 注意事項の変更はありません。

(2) メジャーフロアブル

登録第 23804 号

- ①適用病害虫名の追加:ねぎ／小菌核腐敗病(2000倍)
- ②作物名の変更:はなやさい類⇒はなやさい類(ブロッコリーを除く)、ブロッコリー
- ③使用方法の追加:ブロッコリー／16倍(1.6ℓ/10a)、20倍(2.0ℓ/10a)、32倍(3.2ℓ/10a)、無人航空機による散布
- ④希釈倍数、使用液量の追加:やまのいも／25倍、2.0ℓ/10a(無人航空機による散布)

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピコキシトロピンを含む農薬の総使用回数
ねぎ	さび病 べと病 黒斑病 葉枯病 白絹病 黒腐菌核病 小菌核腐敗病	2000 倍	100～300 ℓ/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
はなやさい類 (ブロッコリーを除く)	菌核病 べと病 黒すす病						
ブロッコリー	黒すす病	16 倍	1.6ℓ/10a				
		20 倍	2.0ℓ/10a				
		32 倍	3.2ℓ/10a				
やまのいも	葉渋病 炭疽病	20 倍	1.6ℓ/10a				
		25 倍	2.0ℓ/10a				
		40 倍	3.2ℓ/10a				
		2000 倍	100～300 ℓ/10a				
						無人航空機 による散布	
						散布	

* 注意事項の変更はありません。

(3) フェニックスフロアブル

登録第 22853 号

①使用方法の追加

- ・だいず、えだまめ／16～32倍(0.8ℓ/10a)、無人航空機による散布
- ・てんさい／32倍(1.6ℓ/10a)、40倍(2ℓ/10a)、無人航空機による散布

②適用病害虫名の追加:だいず、えだまめ(オオタバコガ)／4000倍(散布)、

16～32倍(無人航空機による散布)

③使用液量の変更:くり／40倍(4ℓ/10a)、無人航空機による散布⇒(2～4ℓ/10a)
【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	フルベンジアミド を含む農薬の 総使用回数
くり	モモノコ [®] マダ [®] ラノメイカ [®] クスサン	40 倍	2～4ℓ/10a	収穫前日 まで	2 回以内	無人航空機 による散布	2 回以内
		4000 倍	200～700 ℓ/10a			散布	
だいず	ハスモンヨトウ、オオタバコガ [®] ウコンノメイカ、ネキリムシ類 ツメクサガ [®]	16～ 32 倍	0.8ℓ/10a	収穫7日 前まで	3 回以内	無人航空機 による散布	3 回以内
	ハスモンヨトウ	2000～ 4000 倍	100～300 ℓ/10a			散布	
	オオタバコガ [®] 、ウコンノメイカ [®] ネキリムシ類、ツメクサガ [®]	4000 倍					
えだまめ	ハスモンヨトウ、オオタバコガ [®] ウコンノメイカ [®] 、ネキリムシ類 ツメクサガ [®]	16～ 32 倍	0.8ℓ/10a	収穫前日 まで	3 回以内	無人航空機 による散布	3 回以内
	ハスモンヨトウ	2000～ 4000 倍	100～300 ℓ/10a			散布	
	オオタバコガ [®] 、ウコンノメイカ [®] ネキリムシ類、ツメクサガ [®]	4000 倍					
てんさい	ヨウムシ	32 倍	1.6ℓ/10a		2 回以内	無人航空機 による散布	2 回以内
		40 倍	2ℓ/10a				
		4000～ 6000 倍	100～300 ℓ/10a			散布	

* 注意事項の変更はありません。

(4) パレード 15フロアブル
登録第 24072 号

使用方法の追加: かんきつ(灰色かび病)/20倍、40倍、収穫7日前まで、無人航空機による散布

【変更後】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ピラジフルミドを含む農薬の総使用回数
かんきつ	灰色かび病	20倍	4~5ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	無人航空機による散布	2回以内
		40倍	8~10ℓ/10a				
	2000~3000倍	200~700ℓ/10a	散布				

【追加する注意事項】

無人航空機による散布に使用する場合は、次の注意事項を守ること。

- ① 散布は散布機種の散布基準に従って実施すること。
- ② 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
- ③ 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- ④ 散布薬液の飛散によって自動車やカート等の塗装等に被害を生じるおそれがあるので、散布区域内の諸物件に十分留意すること。
- ⑤ 散布終了後は次の項目を守ること。
 - (a) 使用後の空の容器は放置せず、適切に処理すること。
 - (b) 機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タケの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。

以上